

(仮訳) 2021 年 G20 観光大臣会合：  
旅行と観光の回復支援

我々 G20 観光大臣は、旅行と観光の持続可能で強靱な回復と、世界的成長へのその貢献の支援に向けて、政策の優先順位と具体的なガイドラインをめぐる議論と合意形成のため、イタリア議長下で会合を開催した。

観光は引き続き COVID-19 パンデミックの影響を最も受けたセクターのひとつであり、国際観光客到着数は 2020 年に 世界で 73% 減少し、脆弱なグループ、中小零細事業者に前例のない影響を及ぼし、世界旅行ツーリズム協議会 (WTTC) の統計によれば、世界で 18.5% の減少に相当する、6,200 万人近くの旅行観光関連雇用が失われ、見通しは依然として非常に不透明である。

我々は、政府がこれまで、観光セクターへの危機の影響への対処、観光事業と観光地の支援、失業の最小化、および 2021 年以降の回復の支援に向けて、優れた行動をとったと認識する。我々は、2020 年サウジアラビア議長下で合意された行動への関与を再確認し、さらなる努力の必要性を認める。

我々は、旅行と観光の回復は、このセクターが他の分野に直接および間接的な経済的影響を与えるため、世界経済の回復にとって極めて重要であることを強調する。旅行と観光は、持続可能でバランスの取れた成長と発展のための重要な推進力であり、G20 アジェンダへの貴重な貢献となる。

我々は、危機こそ将来の観光を再考する機会であり、今日実施される措置は、より強靱で持続可能かつ包摂的な観光セクターを形成できるものであり、そのような措置は、i) 旅行と観光への信頼を取り戻し経済の回復を可能とする、ii) パンデミックの経験から学ぶ、iii) 持続可能な開発アジェンダを将来の観光の指針として優先する、といったことを求めるべきだと認める。

これに関連して我々は、イタリア議長下における本 G20 会合の優先事項「人、地球、繁栄 (People, Planet, Prosperity)」と一貫する形で作成され、経済協力開発機構 - OECD の支援を受けた、**観光の未来に関する G20 ローマガイドライン** (附属書 A) を承認するとともに、相互関係を持つ 7 つの主要政策分野で行動を実施することにコミットする。

- 安全な移動: 安全な国際移動のための信頼を構築し、安全な国際的な移動のイニシアチブを支援、補完、調整できるようにする
- 危機管理: 将来の危機が観光に与える影響を最小限に抑える
- 強靱性: 不確実な時代における頑強で安定した観光セクターの確保
- 包摂性: コミュニティの関与と観光がもたらす恩恵の拡大

2 .

- グリーン・トランスフォーメーション:世界及び地域の環境を維持するための観光のマネジメント
- デジタル化:観光に携わる関係者全員がデジタル化による恩恵を十分に受けられるようにする
- 投資とインフラ:観光の持続可能な未来へのリソースの集中

さらに我々は、政策分野「グリーン・トランスフォーメーション」への貢献として国連世界観光機関（UNWTO）が提出した、**グリーンな旅行及び観光経済への移行に向けた勧告**（附属書 B）を歓迎するとともに、人、地球および繁栄のニーズのバランス調整に役立つ戦略的資産として、持続可能な観光地を支援および促進することで、観光に持続可能性を取り入れること、および、強靱で包摂的なCOVID-19後の観光経済を確保すること、に向けた行動を求める。

我々は、文化的多様性の維持と評価及び文化遺産の保護に向け、人々の対話と相互理解をもたらす文化の価値を確認する手段として、文化観光の重要性を強調する。

我々 G20 観光大臣は、観光セクターを持続可能かつ包括的で強靱なものとする政策の立案と、国際協力及び官民連携の促進に、引き続き取り組む。我々は G20観光ワーキンググループに対し、OECD、UNWTOおよびその他の関連国際機関の支援を受けて、国内および国際的な政策と措置を共有することにより、観光の未来に関する G20 ローマガイドラインの実施における将来の進捗状況を評価するよう依頼する。

我々は、G20 議長国としてのイタリアのリーダーシップに感謝するとともに、2022 年にインドネシアをG20 議長国として、さらなる進展を確保するため、協力を継続することに合意する。